

聖地・巡礼 — 自分探しの旅へ —

人びとは映像を通じて異文化に対する情報をえるようになりました。文化人類学者のカメラの眼は民族文化の様子を写し撮り、その記録は研究者にとって「聖なるもの」となりました。

今回の特別展では、民博で独自に撮影取材をおこなった映像と展示物によりスペインのサンチャゴ・デ・コンポステラ、四国巡礼、恐山、ルルドなどの「聖地・巡礼」、並びに世界各地で研究者の聖地ともいえるフィールドで撮影した記録映像を紹介します。映像と音声によって、聖地・巡礼を体験することができ、人類学者の辿ったフィールドをも視覚体験する絶好の機会です。

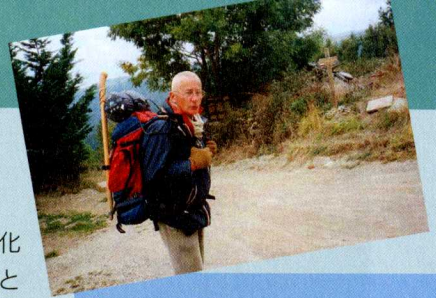
会 期：3月15日(木)～6月5日(火)

場 所：特別展示館

開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

休館日：毎週水曜日

観覧料：一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)
 ※上記の料金で常設展もご覧になれます。※()は20名以上の団体料金、および割引料金です。割引対象者(要証明書)一大学生など(短大・大学・大学院)の授業での利用、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上 ※毎週土曜日は、小・中・高校生は無料



編集後記

今年は民博開館30周年。今月の特集「森」の持つ長い歴史からみれば、わずかな時間である。しかし、森の木の1本1本を、これまで民博で活躍されてきた人びとにたとえるならば、民博にも森のような1個体だけではない、ひとつの共同体としての歴史がぎざまれている。特集で山田氏が日本の森について指摘するように、民博もより存在感のある形にするために、さらなる模索を続けなければならないであろう。

昨年12月の30巻記念号に掲載された『月刊みんぱく』の350枚の表紙写真が、数倍の大きさに拡大されて、ポスターとして開館30周年のイベントなどで活躍している。館内では、この1年『月刊みんぱく』の内容や形に関する議論は続けられてきた。これまでのスタイルに満足せず、常に新たな形を追求しながら、とにかく走り続けなければならない。

民博にある約25万点の収蔵品が宝のもちぐされにならないように、今月号からシリーズ「モノ・グラフ」がスタートした。モノを中心に、そこから見える人の生きかたの複雑さや面白さを紹介します。どうぞ御期待ください。(池谷和信)



交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。



次号予告/5月号特集
ダンス

2007年4月号

第31巻第4号通巻第355号
2007年4月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敬夫

編集委員 池谷和信(編集長) 櫻永真佐夫
久保正敏 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

写真提供・協力 2頁上 増野高司 3頁下 田口洋美

- 本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
- 本誌掲載記事の無断転載を禁じます